

環境政策論

担当教員: 現代社会学部・教授 上坂 博亨

授業の概要	富山県の環境政策についてまなぶ。特に平成28年5月に開催されたG7富山環境大臣会合(平成28年5月)を踏まえその成果や富山県の取組みを紹介する。持続可能な社会を形成するための取組みについても考える。
キーワード	環境政策 負荷 社会経済 持続可能
到達目標	1. あらゆる活動(企業、生活者等)において環境保全に配慮した行動が求められていることを考慮し、県民や事業者に必要な環境法令や自主的な行動について理解を深める。 2. 富山県の特徴的な環境施策について理解を深め、県の環境政策や取組みを説明できるようになる。

現代社会学部

ディプロマポリシー	3.スペシャリストとしての能力(専門性の向上)
カリキュラムポリシー	⑧環境デザインに関する専門性の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
◎	○	◎		

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学習指導・自主活動
◎	○				

授業計画

回数	授業内容詳細(予定)
第1回-説明	オリエンテーション(上坂博亨/富山県生活環境文化部) はじめに/富山県の環境政策概論
第2回-説明	立山の自然環境と災害(富山県立山カルデラ砂防博物館)
第3回-説明	富山湾における豊かな海づくり(富山県農林水産部水産漁港課)
第4回-説明	生物多様性の保全と持続可能な利用(富山県生活環境文化部自然保護課)
第5回-説明	富山県の公害の歴史(富山県イタイイタイ病資料館)
第6回-説明	生活環境の保全(富山県生活環境文化部環境保全課)
第7回-説明	水と緑の森づくり(富山県農林水産部森林政策課)
第8回-説明	企業での環境保全の取組み(調整中)
第9回-説明	地球温暖化対策の現状(富山県生活環境文化部環境政策課(地球環境係))
第10回-説明	廃棄物の3Rの推進について(富山県生活環境文化部環境政策課(廃棄物対策班))
第11回-説明	北東アジアの環境問題(調整中)
第12回-説明	国際協力と海洋環境保全((公財)環日本海環境協力センター)
第13回-説明	施設見学(上坂 博亨) 【行程予定】富山県庁前 → イタイイタイ病資料館 → 富山ペレット → 常西公園小水力発電所 → 西番小水力発電所 → 仁右工門用水小水力発電所 → 富山国際学園サテライトオフィス(CiC)
第14回-説明	同上
第15回-説明	まとめ(上坂 博亨)

評価方法	レポート(50%)、授業への積極的取組姿勢(50%)
------	----------------------------

使用資料<テキスト>	必要に応じて資料を配布	使用資料<参考図書>	講義にて提示
------------	-------------	------------	--------

授業外学修等	今回は8月21日から24日までの集中とする。会場:富山県農協会館及び富山国際学園サテライトオフィス(CiC 3階) 授業時間に課題を提示する。
授業外質問方法	電子メールによる質問を随時受け付ける。または、授業の終了時に受け付ける。
オフィス・アワー	

とやま地域学

担当教員：教授 尾畑納子

授業の概要	国は地方での雇用拡大など地方創生に向け動き、昨年5月には富山でG7環境会議が開催され、富山県が全国的に注目されるようになった。本講義では、富山に関する情報をより広く学ぶため、3つの分野から解説する。一つは富山の歴史・文化、産業を歴史的な視点から学ぶ。次に富山の特徴でもある自然環境に着目し、水、災害、くらしなどから富山の特徴を学ぶ。これらを踏まえ、富山の将来を展望するため、富山県のデータを基に分析し、また富山県知事の政策をお聞きしながら、年配の方から若者まで活力ある富山の地域づくりについて各自が考える。
キーワード	富山の歴史と 富山の自然 水と災害 地方の未来創
到達目標	目標1: 富山の歴史文化、環境、産業の現状などを学び、特色を理解すること。 目標2: 富山の自然、災害について学び、持続可能な安全な地域づくりを考える。 目標3: 政策の専門家の講義、現地研修を通して、富山、北陸地域の活性化について受講を通して考える。

現代社会学部

ディプロマポリシー	1.「人」としての能力(人間性の向上)
カリキュラムポリシー	①学生の基礎的能力の向上

キー・コンピテンシー(重視する能力)				
コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力
		○		

教授方法(授業方法)					
知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ演習	地域フィールドワーク	授業外学習指導・自主活動
○				○	

授業計画

回数	授業内容詳細	標準時間
第1回-説明	8月28日(月) オリエンテーション 越中(富山県)の歴史と文化(万葉時代～中世) 講師:前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏	
第1回-予習		0
第1回-復習		0
第2回-説明	8月28日(月) 越中(富山県)の歴史と文化(近世～) 講師:前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏	
第2回-予習		0
第2回-復習		0
第3回-説明	8月28日(月) 富山の近代史-近代化の始まり(明治時代から大正時代) 講師:前富山国際大学 現代社会学部 非常勤講師 米原 寛 氏	
第3回-予習		0
第3回-復習		0
第4回-説明	8月28日(月) 富山の文学・文化(高志の国文学館) 講師:主任・学芸員 綿引 香織 氏	
第4回-予習		0
第4回-復習		0
第5回-説明	8月29日(火) 富山の自然「富富富(ふふふ)」 講師:富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 育種課 課長 小島 洋一朗 氏	
第5回-予習		0
第5回-復習		0
第6回-説明	8月29日(火) 富山の自然 講師:富山市科学博物館 主任学芸員 増淵 佳子 氏	
第6回-予習		0
第6回-復習		0
第7回-説明	8月29日(火) 富山の自然と災害① 講師:元富山県土木部長 白井 芳樹 氏	
第7回-予習		0
第7回-復習		0

第8回-説明	8月29日(火) 富山の自然と災害② 講師:元富山県土木部長 白井 芳樹 氏		
第8回-予習			0
第8回-復習			0
第9回-説明	8月30日(水) 現地研修(富山県内) 本講義に関連する施設を視察予定		
第9回-予習			0
第9回-復習			0
第10回-説明	8月30日(水) 現地研修(富山県内) 本講義に関連する施設を視察予定		
第10回-予習			0
第10回-復習			0
第11回-説明	8月30日(水) 現地研修(富山県内) 本講義に関連する施設を視察予定		
第11回-予習			0
第11回-復習			0
第12回-説明	8月31日(木) データから見る富山の姿 講師:富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏		
第12回-予習			0
第12回-復習			0
第13回-説明	8月31日(木) 富山の政策を語る 富山県知事 石井 隆一 氏		
第13回-予習			0
第13回-復習			0
第14回-説明	8月31日(木) 富山の政策を考える枠組み 講師:富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏		
第14回-予習			0
第14回-復習			0
第15回-説明	8月31日(木) 今後の富山づくり(意見交換を含む) 講師:富山国際大学 客員教授 浜松 誠二 氏		
第15回-予習			0
第15回-復習			0
第16回-説明	まとめ、レポート提出 これまでの学びについて整理したものを参考に、富山の未来のために必要なこと、自分は何ができるかについて考え、まとめる。		0
第16回-予習			0
第16回-復習	富山の活性化策について、今後の講義や実習の中で活かせる工夫をしてほしい。		0

評価方法	受講態度及び毎時の課題、現地研修(50%)、レポート(50%)をもって総合的に評価する。 試験は実施しない。
------	-----------------------------------------------------------

使用資料<テキスト>	当日テキスト配布(無料)	使用資料<参考図書>	富山県のHPを参照。 各講師が情報提供を行う。
------------	--------------	------------	----------------------------

授業外学修等	授業前後の学習に関しては、本要綱の到達目標を踏まえ初日のオリエンテーションで説明を行う。
授業外質問方法	授業に関する質問などは毎回質問票を配布して各講師に提出する。 その他、休憩時間などを利用して質問などに応じる。
オフィス・アワー	

授業科目名	現代社会と法	授業科目区分				職名	担当教員
		対象学期	対象学年	単位数	授業方法		
		大学コンソーシアム富山 単位互換開講科目					
英 文 名		夏期集中	1年	2単位	講義	教授	高倉 史人 オムニバス形式
授業概要	昭和22年（1957）5月3日に日本国憲法が施行されて、本年は70年目の節目にあたる。その間、日本国憲法は、日本の法制度の頂点をなす最高法規として、日本の国家、社会の仕組の大枠を形成し、人権を保障すると同時に、個々の利益の現実の調整原理として、様々な社会ルールの根拠となり、またその限界を画してきた。一方、日本国憲法が施行された当時から約70年間経過し、その間、社会が大きく変化するなかで様々な問題が生じている。それゆえに、日本国憲法を取り上げて様々な問題点に関して考察することは重要である。本講義は「日本国憲法施行70年をむかえて」をテーマとして、日本国憲法の様々な分野について、著名な講師による講義を実施する。						
到達目標	①憲法の掲げる基本理念を理解すること。 ②憲法の果たしてきた役割をしっかりと認識し、憲法に対して真摯に向き合うことができること。 ③上記のことを踏まえ、自分の考えで議論したり、レポートを書くことができること。						
コンピテンシー（重視する能力）		協調性	傾聴力		創造力	論理的思考力	
			◎			○	

授業科目との関連	履修の前提となる科目	関連する科目
		憲法入門、憲法A、憲法B、行政法、地方自治法

授業計画	回数	
	第1回	改めて憲法を考える-今年は憲法施行70年「立憲主義とはどういうものかなど」
第2回	同 「憲法第13条と第9条など」	8月28日（月）3限 同
第3回	同 「自民党の目指すものと主権者としてすべきことなど」	8月28日（月）4限 同
第4回	憲法改正をめぐる諸問題「国家と憲法、前文、天皇、家族について」	8月29日（火）2限 日本大学名誉教授 百地 章 氏
第5回	同 「憲法第9条について」	8月29日（火）3限 同
第6回	同 「緊急事態事項、憲法改正手続きについて」	8月29日（火）4限 同
第7回	憲法の歴史 「大日本帝国憲法成立史」	8月30日（水）2限 高岡法科大学法学部教授 高倉 史人 氏
第8回	同 「日本国憲法成立史」	8月30日（水）3限 同
第9回	同 「大日本帝国憲法と日本国憲法の比較」	8月30日（水）4限 同
第10回	日本国憲法の人権保障「日本国憲法における『個人の尊重』の意義」	8月31日（木）2限 関西大学大学院法務研究科教授 木下 智史 氏
第11回	同 「憲法上の自由の限界=『公共の福祉』の意味」	8月31日（木）3限 同
第12回	同 「憲法上の権利の保障をめぐる具体的事例から」	8月31日（木）4限 同
第13回	憲法改正 三つの論点「日本国憲法の成立過程の問題点」	9月1日（金）2限 平成国際大学名誉教授 高乗 正臣 氏
第14回	同 「憲法第9条解釈の欺瞞性」	9月1日（金）3限 同
第15回	同 「日本の国柄と憲法」	9月1日（金）4限 同

評価方法	レポート(60%) 授業に対する姿勢・態度(40%)を総合的に評価する。	
使用資料	テキスト	各講義にレジュメを配布
	参考図書	高乗正臣・奥村文男編『プラクティス・法学実践教室<2>』成文堂(1,900円+税)
受講上の注意	毎回、出席をとる。遅刻や無断欠席は厳禁。講義中の私語や携帯電話等の使用禁止。 六法を持っている者は持参すること。 本講義は、大学コンソーシアム富山の事業として他大学生及び県民にも広く聴講を呼びかけることで、地域貢献の一環としての役割も併せもっている。	
事前・事後学習 (学習課題)	事前	憲法に関連する図書の講読。または、新聞やニュースなどで取り沙汰される憲法について見聞を広める。
	事後	講義内容の復習
オフィスアワー	授業終了時	
備考		

英語プレゼンテーション講義（初級） －学生が考えるインバウンド対策－		配当学年	1～4年
		開講学期	集中講座（4日間）
		単位数	1
		単位区分	
担当教員	清水 義彦	関連する 学習・教育目標	
授業の目標	「学生が考えるインバウンド対策」をテーマに、文献調査、フィールドワークと外国人留学生との協働作業を通して、学生の視点で富山のセールスポイントを調べ上げ、その内容を海外観光客向けの英語プレゼンテーションとして5分間にまとめ、発表する。		
学生の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内の留学生と協働して、4日間で300wordの英語原稿をまとめることができる。 ・ 5分間の英語プレゼンテーションをすることができる。 		
授業計画	<p>【1日目】 第1回：グローバル社会で英語は必要か？－外部講師を招いて 第2回：英文を書くための基礎1 －3C（correct, clear, concise） 第3回：調査1、原稿作成1 －県の観光政策、テーマ設定、初稿作成 第4回：英語スピーチ1（2分間） －発表、ピアレビュー（相互評価）1 ＜自宅学習：初稿の完成＞</p> <p>【2日目】 第5回：英文を書くための基礎2 －英語ロジック（日本語と英語の違い）→原稿修正 第6,7回：フィールドワーク －留学生と富山市内で情報収集（写真、ビデオ） 第8回：原稿作成2 －生きた情報を盛り込み、第2稿完成 ＜自宅学習：最終稿完成＞</p> <p>【3日目】 第9回：英語スピーチ2（4分間） －グループ内での発表、留学生とピアレビュー2 第10回：英語プレゼン指導1 －「英語プレゼン」とは？ 第11回：英語プレゼン指導2 －スライド作成 第12回：英語プレゼン指導3 －グループ内での発表、留学生とピアレビュー3 ＜自宅学習：発表練習＞</p> <p>【4日目】 第13,14,15回：発表会&振り返り －英語プレゼン（留学生が審査、ディスカッション担当）</p>		
キーワード	英語プレゼンテーション、英語ロジック、富山を再発見、外国人留学生との協働		
成績評価法	パフォーマンス(スピーチ&プレゼン)の完成度、発表原稿の完成度を総合的に評価		
成績評価基準	英語スピーチ&英語プレゼン 50%（1日目10%、3日目10%、4日目30%） 英文原稿 50%（初稿10%、第2稿10%、最終稿30%）		
教科書・教材参考書等	中山裕木子（2009）：技術系英文ライティング教本，日本工業英語協会		
関連科目・履修条件等	河合ゆみ子（2013）：技術系英語プレゼンテーション教本，日本工業英語協会 HANDBOOK TOYAMA JAPAN－日本の富山がよくわかる－		
履修上の注意事項や学習上の助言	教科書は「技術系英文・・・」となっていますが、文系学部の学生にこそ役立つ教科書です。英語で真意を100%伝える基礎基本の3C（correct, clear, concise）を重視し、これまでの一般英語をより使いこなす技を会得できます。文系人間の私は「目から鱗」の教本でした。本講座は英検準2級、TOEIC400点前後の英語力の学生が満足することを意識しています。		
学生からの質問への対応方法	授業後、休み時間など対応する。 E-mail： shimizu@pu-toyama.ac.jp にて随時対応する。		

航空機入門 Introduction to Aviation		配当学年	1～4年
		開講学期	前期・集中講座
		単位数	1
		単位区分	
担当教員	富山県立大学教授 坂村芳孝 " 客員教授 戸田信雄	関連する 学習・教育目標	
授業の目標	航空機のしくみや開発、生産等、航空機の技術と製造に関わる幅広い知識を習得し、航空機製造業や航空機運送事業について理解を深める。		
学生の到達目標	① 航空機の歴史、開発、生産、安全性についてその概要を説明することができる。 ② 航空工学の基礎（空気力学・飛行力学）を理解し、その概要を説明することができる。		
授業計画	① ガイダンス／航空機の歴史 ② 航空機産業の特色／飛行のしくみ ③ 航空機の開発と生産 ④ 航空機の安全性／宇宙ロケットの基礎 ⑤ 航空機部品生産の現場 ⑥ 空気力学の基礎 ⑦ 飛行力学の基礎 ⑧ 航空機に関する最新の研究トピック／まとめ		
キーワード	航空機、飛行機、ロケット、型式証明、複合材料、応力、疲労破壊、ベルヌーイの式、渦、揚力、抗力、静安定		
成績評価法	レポートによって評価する。		
成績評価基準	レポート（100%）		
教科書・教材参考書等	参考書：室津義定「航空宇宙工学入門 第2版」森北出版 ISBN：9784627690325 牧野光雄「航空力学の基礎 第3版」産業図書 ISBN：9784782841044		
関連科目・履修条件等	高等学校で物理を履修していることが望ましい。		
履修上の注意事項や学習上の助言	講義日に資料を配付するので、授業後に復習し、理解の助けとすること。		
学生からの質問への対応方法	E-mail: sakamura@pu-toyama.ac.jp		